



NEWS

2012 No.260

11月号

全国整備工場の皆様へNGP組合員200拠点がお届けするお役立ち情報

第8回通常総会開催

ちよく おう まい しん

絶え間ない努力で直往邁進

NGPのリユース部品でビジネスチャンスをお手伝い 総員総力を結集してお客様第一を徹底します

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合は10月29日、東京都港区の品川プリンスホテルで第8回通常総会を開きました。厳しい経済環境下、総員総力を結集してお客様第一に邁進することを確認しました。



NGP協同組合第8回通常総会で挨拶する長谷川理事長

NGP協同組合第8回通常総会は、今年2月に鬼籍に入られた故・多島秀敏NGP協同組合顧問に黙とうを捧げた後、議事を進行しました。

冒頭のあいさつで長谷川利彦理事長は「前期は、『次世代へ挑戦、NGPプロフェッショナルリズムを磨き続けよう!』をテーマに果敢に取り組んだ結果、NGPグループ全体の売上は前期比6%増の455億3380万円となり、500億円目前まで達成することができました。さらにベルマーク運動に協賛し、東北復興の継続的支援に取り組む態勢をとることができるようになりました」とし、組合員各社の協力へ感謝の意を表しました。

続けて『「直往邁進」。強い組合を育てる、総員総力を結集しよう!』という今期テーマを説明、「直往邁進は脇目を振らず信念を持ってまっすぐに強くすると意味です。今期はカイゼン塾など組合員を強くするための

研修にしっかり取り組んでいきます」などとNGP協同組合の活動方針を示しました。

国内外の経済不況、円高、さらに政局不安と、日本経済が好転する気配はなく、自動車関連業界、損害保険業界、そして自動車リサイクル業界も含めて来年は厳しい1年になると予測されます。このなかでもう一度NGP組合員個々の力を鍛え直し、それぞれの地域で

整備工場の皆様から選ばれるリユース部品事業者であることをめざします。

自動車アフターマーケットでは、損害保険各社が自動車保険に新しい料率体系を導入したことで、リユース部品に市場拡大のチャンスが訪れたと見られています。しかし、このことは供給率、品質、価格など、従来から指摘されてきた課題をリユース部品業界が、自ら解決しなければ達成できません。

NGP協同組合はそのために努力をさらに重ね、整備工場の皆様のお役に立つ覚悟です。

具体的には「強い組合を育てる」ために従来以上に組合員の研修を充実、新たにカイゼン塾を開始するとともに、生産フロントマン研修を現場主義の視点で見直し、充実させます。これにより、生産効率を高め、より良い商品をいち早く供給し、お客様第一のサービスをレベルアップいたします。

また、広報宣伝活動ではテレビCMの全国

放送を実施、整備工場の皆様にお客様を結びつけるインターネットサイト「NGPエコひるば」の宣伝活動に力を入れてきました。さらにベルマーク運動に協賛、今年4月からNGPのリユース部品にベルマークを付けて販売し、リユース部品の利用を社会貢献に直結させるなどし、リユース部品の利用促進につながる広報宣伝活動に力を入れています。

直面する輸送費上昇に関しては、新たなリターナブル資材の利用構想も含め、同業他グループとの連携・協力を模索して対策を講じることなどの検討を進めることにしています。今期もお客様第一を念頭に諸施策を展開し、整備工場の利益につながるリユース部品の提供に邁進します。こうした基本方針が、総会で満場一致で採択されました。

NGP協同組合の前期リサイクル部品売上は前期比6.0%増の伸びでしたが、期初に掲げた目標に対する達成率は95.3%にとどまりました。期中の使用済自動車処理台数は65万5851台と東日本大震災の影響から大幅に回復することはできましたが、前々年対比では12万8660台ほど少なく、車両仕入れ環境は厳しい状況になっています。

今期のリサイクル部品売上目標は10%増の500億円。厳しい経営環境ではありますが、NGP長年の目標があとひと息で手が届く段階になりました。NGP協同組合はこれに向けて組織をあげて努力を重ね、整備工場の皆様のビジネスチャンスを広げるリユース・リサイクル部品の提供に邁進してまいります。引き続きご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

NGP協同組合執行部記者会見

今期売上500億円達成の力強いメッセージ発信

第8回通常総会終了後、長谷川利彦理事長はじめ正副理事長会メンバーに

「500億プロジェクト」プロジェクトリーダーの増田嘉久理事を加え、恒例の記者会見に臨みました。

「組合員の力を合わせて来期グループ売上500億円達成をめざしたい」(長谷川理事長)などと、当面の目標達成に向けた決意を表明しました。



総会終了後、記者会見に臨むNGP協同組合執行部

一評判が高いテレビCMの次の手は。

長谷川理事長 予算もあり、長期間の全国放映はできません。しかし組合員に個別にローカルで活用することは可能だということ伝えてあるので、ローカル放送で活発に流れるようになれば、さらに一般ユーザーにリサイクル部品についての認識が広がるものと期待しています。

一加盟社が2000社を超えた「NGPエコひろば」に次の目標はありますか。

増田理事 テレビCMを開始するまでに2000社という当面の目標を立て、どうにか達成することができました。まだ網羅できていない地域もあるので、整備工場の皆様への登録提案活動を継続したいと考えています。CM開始前20日間で5417件だったエコひろばへのアクセス件数は、開始後の20日間は1万6929回と3倍に増えました。こうした効果も伝えて、提案していきたいです。

一事業テーマの「直往邁進」に込めた思いをお聞かせください。

長谷川理事長 何としても組合員の力を合わせて500億円達成をめざすのだということでのこの言葉を使うことにしました。教育委員会が行う必須教育については今期1年間無料化し、徹底して受けていただくことにしたほか、カイゼン塾ということで5S中心にした現場型セミナーを実施し、強い組合の

育成のための支援を行うことにしました。

一「強い組合」ということでどのようなイメージをお持ちですか。

中村副理事長 まず組合全体で統一した意識を持ってもらおうということで、執行部として各組合員にメッセージ発信しています。NGPというブランド意識を全員が持ち、組合員が一斉に目標に向かって進むことができる強い組織を作りたいと思っています。

一次期総会は名古屋で開催ということですが、開催方法を変更したのですか。

山田副理事長 過去、NGPグループの時代は各支部の持ち回り開催でした。途中から東京が便利ということで、東京開催が中心になりましたが、地方開催すればお互いの工場見学などで交流も深まります。毎回できるかどうかわかりませんが、支部持ち回りの原点に戻ってみようということで次回は東海支部の担当で名古屋で開催することを決めました。

高齢化が進む使用中の乗用車

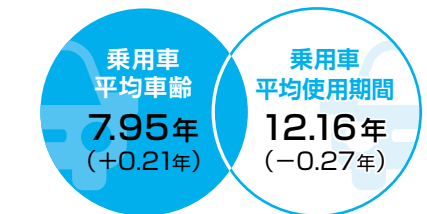
平均車齢は20年連続で続伸 過去最高を更新して7.95年

自動車検査登録情報協会(自検協)がまとめた2012年版「わが国の自動車保有動向」によると、2012年3月末の乗用車(軽自動車を除く)の平均車齢は7.95年となり、前年3月末と比べて0.21年伸び、過去最高齢となったことがわかりました。乗用車の平均車齢高齢化はバブル崩壊とともに始まり、20年連続となりました。

平均車齢は、今走っている車が初度登録からどのくらい経っているかを示す数字で

す。新車販売が低迷し、国内保有車両に車齢の若い新車が供給されなければ、平均車齢は上がります。プラス0.21年と顕著な伸びを示した理由として、単に乗用車の使用長期化が進んだだけでなく、昨年度は東日本大震災やタイの洪水の影響で一時的に新車供給が不足、同時に中古車市場も下取り車不足となり、高齢な車両が中古市場に多数発生したことによるそうです。

乗用車の平均車齢約8年というデータは、



使われている乗用車の半数以上が3回目の車検を終えていることを意味します。これにともしつかりした車両整備を求めるユーザーが多くなっていると予測できます。ちなみに同年3月末の貨物車の平均車齢は前年3月末に比べ0.39年伸びた10.43年、乗合車は同3.4年伸びた11.12年でした。

また2012年度の1年間で抹消された乗用車(軽自動車を除く)の12.16年で、前年より0.27年短期化しています。

NGP今月のCO2削減量

リサイクル部品利用にともなう削減効果

※NGPをはじめとしたリサイクル部品販売事業12団体は、グリーンポイントクラブを作り、リユース部品、リビルト部品を利用することで達成できたCO2の削減量を利用者の皆様にお知らせしています。ご協力ありがとうございます。



NGP 平成24年9月: **6,681 t**

NGP 1月からの累計: **61,373 t** (全12団体 1月からの累計 **107,843 t**)

リターナブル梱包材利用にともなう削減効果

※リターナブル梱包材の利用にともなう削減効果はNGP協同組合独自のCO2排出削減の取り組みです。ダンボールに変えて、専用梱包材を200回繰り返し使用することで削減効果を試算しました。



NGP 平成24年9月: **24.3 t**

NGP 1月からの累計: **203.7 t**

※リターナブル梱包材は、ドア・フェンダー用に加えて2011年2月よりバンパー用の運用を開始しました。

2012年CSRレポートまとまる

順調に伸びたNGPのリサイクル部品売上 年間500億円にあと一歩

NGP協同組合の「2012年CSRレポート(環境報告書)」がまとまりました。2011年9月から12年8月までの2011事業年度で取り組んだ事業報告、使用済自動車処理実績やフロンガス回収処理量、エアバッグ展開・回収処理個数などを環境負荷低減活動の実績を取りまとめたものです。

関連市場を概況しますと、2011年度(11年4～12年3月)の新車販売台数(登録車+軽自動車)は前期比3.3%増の475万3千台でした。前半は東日本大震災にともなう新車生産回復の立ち遅れで市場は低迷

しましたが、エコカー補助金によるテコ入れ効果で年度後半の新車販売は大きくプラスに転じました。しかし、使用済自動車の引取報告は296万4千台で同18.7%減と大きく落ち込みました。

NGP協同組合が適正処理した使用済自動車は65万5851台で、東日本大震災の影響を直接受けた前期に対して9.6%増の回復を見せましたが、前々年対比では処理台数は12万8660台ほど少なく、厳しい車両仕入れ状況になりました。

この中で積極的にリサイクル部品の生産・

販売に取り組んだことで、前期の売上金額は455億2282億円で前年比5.9%増となりました。NGPは売上500億円を目標にさまざまな施策を積み重ねてきましたが、スタートした今期、10%の売上増を達成すれば目標に届きます。これも取引先の整備工場の皆様のおかげです。

ちなみに2011年度のリサイクル部品生産点数は前期比6.4%増の200万3677点、販売点数は同69.2%増の421万2126点でした。

この他、期中前後のエポックメイキングなできごとは、昨年5月にリユース(リサイクル)部品の品質保証基準が統一されたこと、またNGPとしてベルマーク運動に協賛し、4月からNGPのリユース部品にベルマークを貼付して販売を始めたことです。

業界統一の品質保証基準はあくまでも最低基準です。NGPは、例えばエンジン・ミッションについて6カ月・1万kmまでという高い品質保証を設けて生産・販売をしてきました。引き続き、より高い品質の部品提供に努めます。地球環境とベルマーク運動を通じて社会に貢献するNGPのリユース部品へのご協力をよろしくお願いいたします。

NGP協同組合の使用済自動車再資源化実績(2011年9月～12年8月)

● 使用済自動車処理台数	65万5851台	9.6%増
● フロンガス回収処理量	15万1978kg	1.9%減
● 廃オイル回収処理量	340万4855ℓ	5.0%増
● LLC回収処理量	160万9150ℓ	3.7%増
◆ 廃タイヤ処理数	207万7955本	3.7%減
◆ エアバッグ展開・回収処理数	126万4739個	5.0%減
◆ 廃バッテリー回収処理量	587万6676kg	3.3%減

あいおいニッセイ同和の技能コンテストを支援

損保のリサイクル部品利用促進姿勢を後押し

NGP事業協同組合は、あいおいニッセイ同和損害調査のアジャスターによる全国技能コンテストを支援しました。新会社に移行後の初の全国技能コンテストで、決勝大会は10月13日に静岡県裾野市のあいおいニッセイ同和自動車研修所東富士センターで、全国の予選を勝ち抜いた13名の選手で行われました。

支援の背景には、損保各社がリサイクル部品の利用を促進しようとしていることがあります。あいおいニッセイ同和損保はNGPと提携し、リサイクル部品の利用特約付自動車保険の販売を実施してきました。今回の技能コンテストでは「地球環境保護活動の推進」をテーマにリサイクル部品の利用を勧める競技を新たに加えて、さらにリサイクル部品の利用を促進しようとする姿勢を鮮明にしています。

競技内容は整備工場の工場長を想定したロールプレイングで、リサイクル部品を利用した修理を勧めるとともにNGPダイレクトシステムによる部品検索の特技などを行い、リサイクル部品を利用する技能と知識を競うというものです。全国の予選を勝ちぬいた選手ということで、選手は皆よどみなくリサイクル部品の有用性を説明していました。

会場ではNGPのリサイクル部品の積極的なPRに努めました。テレビCMを製作し、一般ユーザーにリサイクル部品の利用促進を呼びか

けていること、NGPはベルマーク運動に協賛しており、NGPのリサイクル部品利用が社会貢献につながることを、さらに販促ツールのひとつとして開発したタブレット端末用アプリなどを展示し、整備事業者の皆様がお客様にリサイクル部品を勧めるためのさまざまなツールを用意してサポートしていることを紹介しました。



競技会場でNGPのサポート態勢をPR



初となるリサイクル部品の利用を勧めるロールプレイング

平成23年度年間優秀表彰・品質優良組合員表彰 年間優秀表彰・優秀賞にコマゼン 品質優良表彰で北海道支部5連覇

NGP協同組合の第8回通常総会で前期の部品生産・販売実績で顕著な活躍を見せた組合員を讃える「平成23年度年間優秀表彰」、お客様からのクレーム発生抑制に努めた組合員を表彰する「平成23年度品質優良組合員表彰」の受賞者が発表されました。

年間優秀表彰は、部品売上部門で部品売上金額、対前期伸長率、同様に部品生産部門で

部品生産金額、対前期伸長率を指標とし、金額、伸長率の両項目で上位20位以内に入った組合員を対象に実施しています。実績を積み重ねればハードルが高くなる賞で、今回の表彰では部品生産部門で対象者はいませんでした。部品売上部門で唯一、コマゼン(愛知県弥富市)が売上金額、伸長率で20位以内入りを果たし、年間優秀賞を受賞

しました。

一方、品質優良組合員表彰は、全国平均(8868点)を超えた部品を出荷し、クレーム発生が低かった組合員、年間3万点を超える部品出荷を行い、クレーム発生抑制に努めた大手組合員とに基準を分け、表彰しています。

前者の基準は平均クレーム率0.8%未満で、まるふく八田商会(北海道剣淵町)、アシスト・フクダ(北海道函館市)、岡崎車輛部品(岡山県瀬戸市)、西武オートパーツ(宮城県大崎市)、ケーエー車輛(北海道北広島市)、山一商店(富山県小矢部市)が受賞しました。また、大手組合員ではクレーム率1.22%未満を基準とし、エビス(広島県坂町)、ハセ川自動車(富山県滑川市)、青南商事(岩手県矢巾町)が受賞しました。

アシスト・フクダ、大手でエビス、青南商事は2年の連続受賞となります。

また、品質優良組合員表彰は支部ごとに競ってありますが、品質優良組合員表彰で3組合員が名を連ねた北海道支部が今回もトップ、5連覇を果たしました。



年間優秀賞を受賞した
コマゼンの駒屋吉明社長(写真中央)



品質優良組合員表彰受賞組合員の代表者



品質優良組合員表彰(大手部門)
受賞組合員の代表者

第25回経営者研修会を実施

NGPの一員であることを再確認 協同作業の成長を誓う

NGP協同組合の第25回経営者研修会が9月21～24日の4日間、東京都江東区夢の島のBumB東京スポーツ文化館で開催されました。今回から受講者を組合員の代表者、代表者に準じた役職者に絞り込んで少数精鋭の研修とし、グループ討議や事業計画策定など基本は従来と同じですが、組合員各社の経営トップとしてNGP組織の一員であることの自覚を強く求める内容となりました。

今期から正組合員となったライズコーポレーションの山口一幸さんは「業界の動向を近視眼ではなく先を見て判断し、常にカイゼンの意識を持つことの重要性を感じた」そうです。同時に意思の強さの大切さを学んだそうで、「これを実践するための基本がNGPの三大信条。このことを胸に刻んで新しい気持ち

でスタートしたい」と気を引き締めました。

カーパーツコンドウの伊藤志伸さんは「システムを利用するだけのグループであれば、会員数は増えるかもしれませんが、仲間意識など生まれることもないと思います。NG

Pは違うのだということ学ぶことができました」と言います。そして「NGPの一員としてNGPの取り組みに・活動に積極的に参加します。絶えず自己を磨き、成長し続けます」と決意を新たにしました。

また、オートパルスニホウの三好伸之介さんは、グループ討議で「NGPグループの理念と創業者の想いが丸となってNGPの思想ができた」とことに改めて気づいたそうで、「自分の役職の意味に自覚を持ち、社長の理念を社員と共有し丸となって会社を盛り上げて行きます」と話していました。



NGPとは何かを改めて学んだ4日間



経営者こそ基本が大切、訓練も手抜きなし

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209
http://www.ngp.gr.jp

株式会社 NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201
http://www.ngp.co.jp